



2020年2月7日

各位

会社名 株式会社AMBITION
代表者名 代表取締役社長 清水 剛
(コード: 3300 東証マザーズ)
問合せ先 執行役員兼経営管理部部長 尾関 文宣
電話番号 03-6439-8905

2020年6月期上期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、インベスト事業における売上計上の期ずれ等による業績動向を踏まえ、2019年8月14日に公表した2020年6月期上期連結業績予想を下記のとおり修正することとしましたのでお知らせいたします。

記

1. 上期連結業績予想の修正に関して

2020年6月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(2019年7月1日~2019年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	14,389	327	248	143	21.16
今回修正予想(B)	12,105	△21	△95	△137	△20.17
増減額(B-A)	2,284	△348	△343	△280	
増減率(%)	△15.9	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2019年6月期第2四半期)	13,436	557	483	262	38.51

2. 上期連結業績予想の修正理由

2020年6月期上期売上高は、インベスト事業における物件販売に一部期ずれが発生したことから前回発表予想を下回る見込みです。当社の連結子会社である株式会社ヴェリタス・インベストメントの新築投資用デザイナーズマンション「PREMIUM CUBE 代々木上原」において、当初の販売スケジュールに遅延が発生し、物件引き渡しは2020年6月期第2四半期から第3四半期へずれ込んだことがその主な要因となります。当物件においても早期完売となり販売は非常に好調であったものの、当物件に関する全ての売上計上は下期に期ずれする形となります。また、AMBITIONインベスト部においても上期に売上計上予定だった案件の一部が下期に期ずれとなり、上期売上高の押し下げ要因となりました。

利益面においては、第3四半期での物件引き渡しとなった上記ヴェリタスの新築物件が粗利益率の高い自社開発物件であったため、上期営業利益を大きく押し下げる格好となり、経常利益・純利益に至る全ての利益項目は前回発表予想を下回る見通しです。複数の期ずれが発生したインベスト事業は、ヴェリタスおよびAMBITIONインベスト部あわせて3億円程度の営業利益が下期計上へと期ずれする形となります。

なお、利益率の高い新規事業として注力しているRPA事業においては、今後の成長に向けた積極的な先行投資を前期第4四半期から今期にかけて実施しております。上期は期初の予算をやや上回るペースとなる約

2.2億円の先行投資を実施したことも相まって、2020年6月期上期は一時的に赤字を計上する見込みとなりました。

3. 通期連結業績予想に関して

上期業績予想は、前回発表予想に比べて、特に営業利益以下の利益項目において大幅な修正となりましたが、その主要因はあくまでもインベスト事業における物件販売の下期への期ずれであり、主力のプロパティマネジメント事業は極めて順調に推移しております。

そのため、通期業績予想については、2019年8月14日に公表した業績予想から変更はありません。

【補足説明】

当社はもともと下期偏重の傾向があるため期初時点で上期業績予想を開示しております。主力のプロパティマネジメント事業はストックビジネスで、引っ越しシーズンの繁忙期が当社の下期にあたるため、今期も例年通り下期偏重の計画であり、期初計画から大きなずれはありません。

一方、インベスト事業における業績の季節性は会計年度によってまちまちであり、四半期ごとの業績推移は読みにくいという性質があります。今期はインベスト事業の新規案件数が前期に比べて限られることは期初にお伝えしている通りです。2020年6月期上期は中古物件の販売も多く、新築物件においても他社開発物件が中心の計画で、自社開発の新築物件の販売は下期に集中しているため、インベスト事業においても今期は期初より下期偏重の計画です。また、自社開発の新築物件の販売における一物件あたりの業績インパクトは大きく、もともと上期に計上予定だったヴェリタス開発の新築物件が下期に期ずれした影響を受け、今期は期初計画よりもさらに下期偏重傾向が強い年度となります。

なお、利益率の高い新規事業として注力しているRPA事業に関しては、今期5億円程度の先行投資を実施する計画です。上期は期初の予算をやや上回るペースとなる約2.2億円の先行投資を実施致しました。RPA事業は来期以降、急角度の業績成長に導くための新たな成長ドライバーであると確信していることから、今期は引き続き下期においても積極的な先行投資を実施する予定です。

(注) 上記業績予想は、本公表時現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は修正予想数値とは異なる可能性があります。

以上